田嶋智太郎のＦＸレポート

2018.02.22 更新分　　経済アナリスト　田嶋智太郎

■　ひとまずドル/円はテクニカルに一旦底入れ…

前回（2/15）更新分の本欄で、筆者は「そろそろドル売り一巡が期待される時間帯」と述べた。

実際、ドル/円は 2/16 に一時 105.55 円まで下押すも、そこで一旦底入れして反発。徐々に値を戻して、昨日（2/21）は幾度か 108 円を試す動きも見られていた。

今後の参考のため、ここで幾つかの注目ポイントを挙げておきたい。

前回も述べたように、一つにはドル/円が昨年 9/8 に 107 円台前半で目立った安値をつけて反発した週から数えて、先週は 23 週が経過する週であったということ。つまり、ドル/円は先週の時点で所謂「20 週（安値）サイクル」の終点を迎えた可能性があるということだ。これは、あくまで一つの仮説に過ぎないが、仮に直近（2/16）安値が次の 20 週（安値）サイクルの起点になったとすれば、先週から数えて 20～23 週後にあたる時期というものも今から頭の片隅に置いておきたい。

次に、これも前回述べたことだが、先週の 2/15 は「米国債償還・利払い」の日にあたり、翌 2/16 の「仲値」にかけては本邦機関投資家による償還金・利払い金の円転に伴うドル売り・円買いが基本的に生じやすい時間帯であったということである。

また、2/16 安値＝105.55 円というのは「1/8 高値と 1/26 安値、2/2 高値から弾き出される N 計算値（＝105.37 円）」に近いということも注目される。正直、筆者にとってこれは後付けの解釈となってしまったが、それでも大いに今後の参考にしたいと考える。

とにかく、以上のような幾つかのテクニカル的要因もあってか、ひとまずドル/円は先週末にかけて一旦底入れし、足下では戻りを試す展開となっている。周知のとおり、2 月に入ってからドル/円が一段の下げを演じることとなったのは米・日株価の急落が主因であり、その肝心の株価がなおも不安定な動きを続けている状況にあっては、そう簡単に市場リスクオフムードが後退して一気に上方視界が開けてくるというわけにも行かないだろう。

それでも、下図に見るように、ひとたび一目均衡表（日足）の転換線を上抜ければ、次に 21 日線（現在は 108.32 円）を試す可能性はある。この 21 日線は 2 月初旬にもドル/円の上値を押さえた重要な節目の一つであり、今後の関わり合い方が大いに注目される。仮に、この 21 日線をも上抜けてきた場合には、次に 2/2 高値から 2/16 安値までの下げに対する 61.8%戻し＝108.60 円、76.4%戻し＝109.32 円あたりが視野に入ってくるようになるものと見られる。

なお、足下のドルは対円ばかりでなく他の主要通貨に対しても徐々に強みを取り戻す状況となってきており、思えば 1 月下旬あたりから「ドル指数」も底入れの兆しを見せていた。今後、場合によってはドル指数がダブルボトム、一方でユーロ/ドルがダブルトップを完成させる可能性もないではないものと思われ、当面はそうした点にも大いに注目しておきたい。

（02 月 22 日　11：40）